

墨谷山人傳

二

分類 254 部
第 189 号
全 10 册 卷
佛 教 大 学
图 书 馆 所 藏
受領第 149641 号
昭和 年 月



0931 貴 年
20 重 月
2 書 日
佛教大学蔵書
第 149641 号



149641

21177



本朝祖師繪詞第二

六卷

一切經披覽之後淨土宗入給事

上人與慈眼房念佛法談事

上人吉水御房移住事

知恩院御廟事 上人淨土義立給事

俊乘房五祖渡唐事

曇鸞 道綽 善導 懷感 小康

法華三昧普賢來現事

華嚴披講時小蛇出現事

上西門院說戒時小蛇出現事

上人觀念床瑞相現事

七卷



八卷

夢中善導和尚來現事

上人三昧發得事

勢至菩薩來現事 彌陀三尊虛空現事

靈山寺三十七日別時念佛事

月輪殿於上人頭光現事

念珠瑞光事 鏡御影事

諸人感夢事

後白河院如法經事

高倉院一乘圓戒傳受事

同院御終焉知識事

八坂引導寺別時念佛事

九卷

十卷

蓮華主院如法三部經書寫事

後鳥羽院圓戒傳受事

黒谷聖人傳繪詞第六卷

第一段

上人聖道諸宗ノ教門ニアキラカナリニカハ。法相三論ノ
碩德。面々ニソノ義解ヲ感シ。天台華嚴ノ明近。一々ニ。
カノ宏才ヲホム。ニカシトモナヲ出離ノ道ニツラヒテ。身心
ヤスカラス。順次解脫ノ要路ヲシランタメニ。一切經ヲヒラ
キミタニフコト五遍ナリ。一代ノ教迹ニツキテツラツラ。思惟
シタマフニ。彼モカタク。此モカタシ。而ニ慧心ノ往生要集。モハ
ラ善導和尚ノ釋義ヲモテ。指南トセリ。コレニツキテ。ヒラキ
見給ニカノ釋ニハ。亂想ノ凡夫。稱名ノ行ニヨリテ。順次ニ
淨土ニ生スヘキム子ヲ判シテ。凡夫ノ出離ヲダヤスス。メ

ラレタリ。藏經彼覽ノタヒニコレヲカ、フトイヘトモドリヲ
キ見給コト三遍。井ニ一心專念彌陀名號行住坐卧
不問時節久近念々不捨者是名正定之業。順彼佛
願故ノ文ニイタリテ。末世ノ凡夫彌陀ノ名號ヲ稱セハ
ノ佛ノ願ニ乘シテ。タレカニ往生ヲウヘカリナリトイフ。コトハ
リヲオモヒサタメ給ヌ。コレヨリテ。兼安五年春生年四十
三。タチトコロニ。餘行ヲステ。一向ニ念佛ニ歸シ王ヘリ

第二段

アル時上人往生ノ業ニ。稱名ニスキタル行アルヘカラスト
申サルヲ。慈眼房ハ。觀佛スシタルヨシヲ。給ケレハ。稱名
ハ。本願ノ行ナユヘニ。サルヘキヨシヲタテ申タラニ。慈眼房

又先師良忍上人モ。觀佛スシタリトコソ。オホセラレシガ
ト。給ケルニ。上人。良忍上人モ。サキニコソムニ。給タレト。申
サシケルトキ。慈眼房腹立シタマヒケレハ。善導和尚モ。上來
雖說定散兩門之益。望佛本願意在衆生一向專稱
彌陀佛名ト。釋シタマヘリ。稱名スクレタリトイフコト。アキラ
カナリ。聖教ヲハ。ヨクヨク。御覽シ給ハテトソ。申サシケル

第三段

上人一向專修ノ身トナリ給ニシカハ。ツ井ニ四明ノ巖洞
ヲイテ。西山ノ廣谷トイフトコロニ。居ラレメ給キ。イクホト
ナクテ。東山。吉水ノホトリニ。ツカナル地アリケルニ。カノ廣
谷ノイホリヲ。ワタシテ。ウツリスミ給。タツ子イタルモノアリハ。淨

土ノ法ヲノヘ念佛ノ行ヲス、メラル。化導日ニシタカヒテサ
カリニ念佛ニ歸スルモノ。雲霞ノコト。ツノ千賀茂ノ河原
屋。小松殿。勝尾寺。大谷ナト。ソノ居アリタニルトイヘトモ。勸
化ヲコタルコトナシ。ツ井ニホマシ。一朝ニミチ。益四海ニアマ子
レ。コレ彌陀ノ一教。ワカクニ。縁フカク。念佛ノ勝行。末法
ニ相應スルユヘナルヘシ。大谷ハ上人。往生ノ地ナリ。カノ跡イ
マニアリ。東西三丈餘。南北十丈ハカリ。コノウチニ。タテラシ
ケン。坊舎イクホトノカマヘニカアラントミユタリ。ソノ館。後ノホ
トモ。オモヒヤラシテ。アハレニ。タトクソ侍ルイマノ御影堂ノ跡
コレナリ

第四段

或時上人。オホセラシテイハク。出離ノ志。フカ、リシアヒタ。諸
ノ教法ヲ信シテ。諸ノ行業ヲ修ス。オホヨリ。佛教オホシトイ
ヘトモ。所詮戒定慧ノ三學ヲハス。キス。所謂小乗ノ戒定
慧。大乘ノ戒定慧。顯教ノ戒定慧。密教ノ戒定慧ナリ。シ
カルニ。ワカコノ身ハ。戒行ニライテ。一戒ヲモ。タモマス。禪定ニ
ライテ。一モコレヲエス。人師釋シテ。尸羅清淨ナラサレハ。三
昧現前セストイヘリ。又凡夫ノ心ハ。物ニシタカヒテ。ウツリヤ
スレ。ダトヘハ。猿猴ノ枝ニ。ツタフカコトシ。メコトニ。散亂シテ。動
シヤスク。一心シツマリカタシ。無漏ノ正智ナニ、ヨリテカ。オコ
ランヤ。モシ無漏ノ智。劍ナクハ。イカテカ。惡業煩惱ノ。キツナヲ
タ、ンヤ。惡業煩惱ノ。キツナヲ。タ、スハ。ナンソ生死繫縛ノ

身ヲ解脫スルコトヲエシヤ。カナレキカ。カナレキカナ。イカ、セ、
イカ、セ。ニ。コ、ニ。我等コトキハステニ。形、定慧ノ三學ノ多ッハ
モノニアラス。三學ノホカニ。我心ニ相應スル法門アリヤ。我
身ニ堪タル修行ヤアルト。ヨロツノ智者ニモトメ。諸ノ學者
ニ。トフラヒシニラフルニ人モナク。シメスニ輩モナシ。然間ナケ
キナケキ。經藏ニイリ。カナレミカナレミ。聖教ニムカヒテ。手ツカ
ラミツカラ。ヒラキミシニ。善導和尚ノ觀經ノ疏ノ一心專念
彌陀名號行住坐卧不問時節久近念々不捨者是
名正定之業。順彼佛願故。トイフ文ヲ見得テ。我等
カコトクノ無智ノ身ハ。偏ニコノ文ヲアフキ。專ラコノコトハリ
ヲタノミテ。念々不捨ノ稱名ヲ修シテ。決定往生ノ業因

ニ。備ヘシタ、善導ノ遺教ヲ。信スルノミニアラス。又アツク。彌陀
ノ弘誓ニ順セリ。順彼佛願故ノ文フカク。魂ニシミ。心ニト、
メタルナリ。慧心ノ先德ノ往生要集ヲヒラクニ。往生之業
念佛爲本トイヒ。又カノ人ノ妙行業記ノ文ニモ。往生之
業念佛爲先トイヘリ。覺超僧都。慧心ノ僧都ニ問テ。給
ハク。所行ノ念佛ハ。コシ事ヲ行ストヤセシ。コレ理ヲ行ストヤ
セシ。慧心ノ僧都コタヘテ。給ハク。コレ萬境ニサヘキル。コ、
ヲモテ。我々、稱名ヲ行スルナリ。往生ノ業ニハ。稱名モトモタ
リ。コレニヨリテ。一生中ノ念佛。ソノ數ヲ勘タルニ。二十俱
胝遍ナリト給ヘリ。然則源空ハ。大唐ノ善導和尚ノヲ
ヘシタカヒ。本朝ノ慧心ノ先德。ハ、メニカセテ。稱名念

緝傳卷二

第五段

上人ノ念佛七萬遍ニサシテ。ノチハ晝夜ニ餘事ヲミヘ
ラシサリケリ。サシハヅノ、千人ノミイリテ。法門ヲタツ子申ケル
ニハ。キハタマフカト。オホシクテハ。念佛ノコエスコレニキクナリ
給フバカリニテゾアリケル。一向念佛ヲサシヲキ給フコトナカ
リケルトナシ

第六段

上人或時カタリテノタマハクワシ淨土宗ヲヌツル心ハ九

夫ノ報土ニムル、コトヲシメサンタメナリ。モシ天台ニヨシ
ハ。凡夫淨土ニムル、コトヲユルスニ似タレトモ。淨土ヲ判ス
ル事アサシモシ法相ニヨシハ。淨土ヲ判スル事。フカレトイヘト
モ。凡夫ノ往生ヲユルサス。諸宗ノ所談。コトナリトイヘトモ。
スヘテ。凡夫報土ニムル、事ヲユルサ、ルユヘニ。善導ノ釋
義ニヨリテ。淨土宗ヲタツルトモ。スナハキ。凡夫報土ニムル
ルコト。アラハル、也。ゴ、ニ人オホク。誹謗シテイハク。カナラス。宗
義ヲ立セストモ。念佛往生ヲス、ムヘシイマ。宗義ヲタツル
事ハ。タ、コレ。勝他ノタメナレシ。我々凡夫。ムル、コトヲエ
ハ。應身應土ナリトモ。足ヌヘシ。ナンソ強ニ報身報土ノ義
ヲ。タツルヤト。ゴノ義一往生コトハリナリニ。似タレトモ。再往生イ

へハツノ義ヲレラサルカユヘナリ。モレ別ノ宗ヲ立セスハ。凡夫
報土ニ生スル事モカクシ。本願ノ不思議モアラハレカタキナ
リ。シカレハ善導和尚ノ釋義ニミカセテ。カタク報身報土ノ
義ヲ立スゴシメタク。勝他ノタメニアラスト。オホセラレケル

第七段

上人幡磨ノ信窠房ニオホセラレケルハ。ゴニ宣旨ノ二侍
ヲトリタカヘテ。鎮西ノ宣旨ヲハ。坂東ヘクダシ。坂東ノ宣旨
ヲハ。鎮西ヘクダシタランニハ。人モ千井テンヤトノ給ニ。信窠房
シハラク案シテ。宣旨ニテモ候ヘ。トリカヘタランヲハイカノモ千
井侍ヘキト申ケレハ。御房ハ道理ヲシル人カナ。ヤカテサソ
帝王ノ宣旨トハ。釋迦ノ遺教ナリ。宣旨ニアリトイフハ。正

像

偽未ノ三時ノ教ナリ。聖道門ノ修行ハ。正偽ノ時ノ教ナ
ルカユヘニ。上根上智ノトモカラニアラサレハ。證シカタシ。タトヘ
ハ。西國ノ宣旨ノコトシ。淨土門ノ修行ハ。未法濁亂ノ時
ノ教ナルカユヘニ。下根下智ノトモカラヲ。器トスコレ。奥州
ノ宣旨ノコトシ。シカレハ。三時相應ノ宣旨。コレヲトリタカフ
マシキナリ。大原ニシテ。聖道淨土ノ論談アリシニ。法門ハ。半
角ノ論ナリ。シカレトモ。機根クラヘニハ。源空カチタリキ。聖道
門ハ。アカシトイヘトモ。時スキヌレハ。イノ機ニカナハス。淨土門
ハ。アサキニ。似タレトモ。當根ニカナヒ。ヤスレトイヒレトキ。未法
萬年餘經悉滅。彌陀一教利物偏増ノ道理ニオシテ。
人ミナ。信伏レキト。仰セラレケル

第八段

宋

像

震旦ニ淨土ノ法門ヲノフル。人師不ホレトイヘトモ。上人
唐宗二代ノ高僧傳ノ中ヨリ。曇鸞道綽善導懷感少
康ノ五師ヲヌキイテ。一宗ノ相兼ヲタテ給ヘリ。其後俊
乗坊重源入唐ノトキ。上人仰ラレテイハク。唐土ニ五祖
ノ影偽アリ。カナラス。コレヲワタスヘシト。コレニヨリテ。渡唐ノ
後。ア子ク。タツ子モトムルニ。上人ノ仰タカハス。パタシテ。五祖
ヲ一鋪ニ圖スル。影偽ヲ得タリ。重源イヨイヨ。上人ノ内監
冷然ナルコトラレルカ。ノ當麻寺ノ曼陀羅ハ。彌陀如來化
尼トナリテ。大炊天皇ノ御宇天平寶字七年ニ。ブリアラ
ハレ給ヘル。靈偽ナリ。序正三方ノ縁ノサカヒ。日觀三障ノ

像

雲ノアリサマ。人サラニシキヘカタカリシヲ。ノチニ文德天皇
ノ御宇天安二年ニ。モロコシヨリ。ワタレル。善導大師ノ御
釋ノ觀經ノ疏ノ文ヲ見テ。コソ。人不審ヲヒラキ傳シカ。天
平寶字七年ヨリ。天安二年ニイタルマデハ。九十六年ナ
リ。ソノカミ。吾朝ニテ。ヲラシタル。曼荼羅ノハルカノ後ニワタシ
ル觀經ノ疏ノ文ニ。符合セルヲハ。不思議トコソ。申傳テ侍
シ。イマ上人サキタチテ。淨土ノ宗義ヲヒラキタニヒ。後ニ重
源入唐ノ時。カノ影偽ヲワタスヘキヨシヲ。命セラレ。プラスト
コロノ影偽。上人ノ仰ニ。タカハサルコト。豈奇特ニアラスヤ。サ
シハ。道俗貴賤。ガノ五祖ノ真影ヲ。示レテイヨイヨ。上人ノ
德ニ歸シマス。念佛ノ信ヲ。フカクレナリ。當時ニ尊院ノ

經藏ニ安置スルハカノ重源將來ノ真影也
第七卷

第一段

上人タ、諸宗ノ教門ニアキラカナルノミニアラス。修行オホクソノ證ヲ得給モ。ソノカミ。四明黒谷ニシテ。法華三昧ヲオコナヒ給シトキ。普賢白爲ニノリテ。マノアタリ。道場ニ現シタマフ。又上人アル時。虚空上人ナラヒニ。西仙房トモニヲコナヒ。タマヒケルニ。山王影向シテ。納受ノカタチヲアラハシ給ケリ。コレ末代ノ奇特ナリ

第二段

上人黒谷ニシテ。華嚴經ヲ講シ給ケルニアヲキ小クチナハ

机ノウヘニアリケルヲ。法蓮房信空ニドリテスツヘキヨシ。仰セラレハガノ法蓮房カキリナク。チナハニツル。人ナリケルトモ。師ノ命ソムキカタキニヨリテ。出文机ノ明障子ヲアケニラケテ。千里トリニ。キイレテナケステ。障子ヲタテケル。サテカヘリテミレハ。グチナハナヲモトノトコロニアリケリ。コレヲミルニ。遍身ニアセイテ。オソロシカリケリ。上人見給テ。ナトリテハ。ステラヌソト。仰セラレケレハ。法蓮房シカシカト。ゴタヘ申サルルニ。上人默然トシテ。物モノタマハサリケリ。其夜法蓮房ノ夢ニ。大龍カタチヲ現メ。我ハコレ。華嚴經ヲ守護スルトコロノ龍神ナリ。オソルコトナカレト。イフト思テ。ユメサメニケリ。ムカシコノ經龍宮ニアリテ。人間ニ流布セス。龍樹菩薩龍

宮ニキテコレヲヒラキ見テ人間ニカヘリテコレヲヒロメ給
キソノチ覺賢三藏震旦ニシテ安帝義熙十四年三月
十日ヨリ揚州謝司空寺ニ護淨華嚴法堂ヲタテハ花
嚴經ヲ譯シ給シトモ堂ノミヘノ蓮華池ヨリ毎日ニ青衣
丸二人ノ童子アレタニイテチリヲハラヒスミヲスリクルシ
ハイケノ底ヘナシカヘリ入ケル經ヲ譯シヲハリテノチハミエス
ナリニケリゴノ經ヒサシク龍宮ニアリレユヘニ龍神ウヤミ
テ守護ヲクハヘ侍ケルニコソ上人ノ披講ゴトイタリテ龍
神ヲ感セシメタマヒケルユハシクソ侍ケル

第三段

上西門院フカク上人ニ歸マシメシテ念佛ノ御志アサカ

ラサリケリ或時上人ヲ請シ申サシテ七箇日ノアヒタ説戒
アリ圓戒ノ奥旨ヲノヘ給ニ一ノクチナハガラカキノ上ニ七
日ノアヒタパタラカスシテ聽聞ノ氣色アリミル人アヤシミオ
モフホトニ結願日ニアタリテカノクチナハ死セリソノカシラノ
中ヨリ一ノ蝶イテソラニホルトミル人モアリ天人ノカタ
チニテノホルトミル人モアリケリ昔惠表比丘武當山ニシ
テ元量義經講讀セシニコエラキク青雀歡喜苑ニ生セリ
カノ先蹤ヲ思ニコノ小蛇モ大乘ノ結縁ニヨリテ天上ニ
ムマシ侍ケルニヤ

第四段

上人秘密ノ窓ニイリ觀念ノ床ニ坐シ給シニアルトキハ蓮

花アラハレアルトキハ。羯磨ヲミアルトキハ。寶珠ヲ拜ス。觀心
明了ニシテ。瑞相ヲ眼前ニアラハレ給コト。オホカリケリ

第五段

上人アル夜夢ミラク。一ノ大山アリ。ソノ峯キハメテタカシ。南
北長遠ニシテ。西方ニムカヘリ。山ノフモトニ。大河アリ。碧水
北ヨリ出テ。波浪南ニナカル。河原眇々トシテ。邊際ナク。
林樹范々トシテ。限數ヲシラス。山ノ腹ニホリテ。バルカニ。西
方ヲミタマヘハ。地ヨリカミ。五丈ハカリアカリテ。空中ニ一聚ノ
紫雲アリテ。コノ雲トヒキタリテ。上人ノトコロニイタル。希有
ノ思ヲナシ給トコロニ。ゴノ紫雲ノ中ヨリ。無量ノ光ヲイタス。
光ノ中ヨリ。孔雀鸚鵡。鵲。等ノ百寶色ノ鳥トヒイテ。ヨモニ

鵲

散シ。又河濱ニ遊戯ス。身ヨリ光ヲハナチテ。照耀キハナ
シ。ソノ千衆鳥トヒノホリテ。モトノコトク。紫雲ノナカニ。イリ
ヌ。コノ紫雲ニタ。北ニムカヒテ。山河ヲカクセリ。カレコニ。往生
人アルカト。思惟シ給ホトニ。又須臾ニカヘリキタリテ。上人
ノマヘニ住ス。ヤウヤク。ヒロコリテ。一天下ニ覆フ。雲ノ中ヨリ。
一人ノ僧出テ。上人ノ所ニキタリ住ス。ソノサマ。暖ヨリ。金
色ニシテ。コシヨリカミハ。墨染ナリ。上人合掌。低頭シテ。申
タ。バク。コシ誰人ニシマス。ソヤト。僧答給ハク。我ハコシ善導
ナリト。ナニノタメニ來給ソヤト。申給ニ。汝專修念佛ヲヒロ
ムルコト。貴カユヘニギタレルナリト。ノ給トミテ。夢サメヌ。又晝
工乘臺ニオセテ。ユメニミルトコロヲ。周セシム。世間ニ流布シ

下

下

像

テ夢ノ善導トイヘルコシナリツノ面為ノ千ニ唐朝ヨリワタル影偽ニタカハサリケリ。上人ノ化導和尚ノ尊意ニカナヘルコトアキラケシカレハ。上人ノ勸進ニヨリテ。稱名念佛ヲ信シ。往生ヲトルモノ。一州ニミチ。四海ニアマ子シ。前兆ノムナシカラサル。タレノ人カ。信受セサラン。

第六段

上人專修正行トシラカサ子。一心專念功ツモリ給シカ。少井ニ口稱三昧ヲ發シ給キ。生年六十六。建久九年正月七日ノ別時念佛ノアヒタレメニハ。ツツ明相アラハシ。次ニ水想影現レ。ノチニ瑠璃ノ地スコシ中現前ス。同二月ニ寶地寶樓ヲ見タマフソシヨリノ千。連々ニ勝相アリ。

或時ハ左ノ眼ヨリ光ヲ出ス。眼ニ瑠璃アリ。カタク瑠璃ノツボノコトシ。ツボニアカキ花アリ。寶瓶ノコトシ。或時ハバルカニ西方ヲ見トリ給ニ。寶樹ツラナリテ。高下心ニシタカヒ。或時ハ座下寶地トナリ。或時ハ佛ノ面偽現シ。或時ハ三尊大身ヲ現シ。或時ハ勢至來現シ給。スナハチ。畫工ニ命シテ。コレヲヲツシトメラル。或時ハ寶鳥琴笛芋ノ種々ノコエヲキク。クハシキム子。御自筆ノ三昧發得ノ記ニミエタリ。カノ記。上人存日ノアヒタレ。披露ナシ。勢觀房遺跡ヲ相兼ノハチ。コレヲ披見セラレケリ。高野ノ明遍僧部ハ。ガノ記ヲヒラキミテ。隨喜ノ淚ヲナカサレケルトナシ。

第八卷

第一段

上人三昧發得ノ。千ハ。暗夜ニ燈燭ナレトイヘトモ。眼ヨ
リ光ヲハナキテ。聖教ヲヒラキ。室ノ内外ヲ見給フ。法蓮房
モ。ノアタリ。コレヲ拜シ。隆寛律師モ。コトニ此事ヲ。信仰セ
ラレケリ。アルトモ。夷燭ノ程ニ。上人ノトカニ。聖教ヲ披覽シ
給フ。ヲトノシケレハ。正信房イマタ。燈明ナト。タテツルトモ。覺
サリツルニト。オホツカナクテ。ヒソカニ。座下ヲ伺ニ。左右ノ御目
ノスミヨリ。光ヲハナキテ。文ノ面ヲテラシテ見給。ソノ光ノアキ
ラカナルコト。トモシヒニスキタリ。イミシク。タウトキコト。カキナシ。
カヤウノ内證ヲ。ハフカク隱密スルコトニテ。侍ニト思テ。又キア
シ。テ。マカリイテヌ。又アルトモ。更タケ夜シツマリテ。深窓ニ人

用

ナシ。上人ヒトリ念佛シ給。御聲勇猛ナリケレハ。ヨナヨナ。老
骨ヲハケマシ。ヲコタリナキ。御ツトメ。イタハシクモ貴モ覺テ。モシ
御要ヤ。イヌラントテ。正信房マイリテ。ヤリドヲヒキアケテ。見
タテマツシハ。身光赫奕トシテ。坐シ給ヘル。疊ニ帖カ上ニミ
テリ。明ナルコト。暮山ニ望テ。夕陽ヲ見カコトシ。身ノ毛モ。立
計ナリ。タウトシト。イフモ。ヲロカナリ。心ツキナクヤ。オホスラン。サ
シハトテ。ヤカテマカリイテンコトモ。中々也。進退ワツラフトコ
ロ。ニコトノヤヲ。ミエヌトヤ。思給ケシ。上人タレソト問給。湛空
ト答申サレケレハ。バヤシテ。各ヲモ。カヤウニナシタテ。ツラハヤナ
ト。仰ラレケル。慈恩ムカシ。玄勢ノ明下ニアリテ。眼ヨリ光
ヲハナキテ。夜聖教ヲヒラキシカハ。泗州大師上座ナリシカト

モナヲ其德ニ信伏^フシテ。アフキテ。師範^シトシ給キ。イマ邊州ニ
シテ。末代タリトイヘトモ。奇特マコトニ。上古^{キコ}ニ耻サルヲヤ

第二段

アルトキ上人念佛^シテ。オハレタルニ。勢至菩薩來現^シ給
フコトアリケリ。ソノタケ。一丈餘ナリ。畫工ニ命^シテ。其相ヲ
ヲツシド。メラシ。ナカク本尊トアフキ申サレケリ

第三段

上人アカラサマニ。草庵^{サアン}ヲタキイテ。カヘリタマヘリケルニ。彌
陀ノ三尊繪像^{エゾウ}ニアラス。木像ニアラス。ガキヲハナシ。板敷ニ
モ。天井^{テンキョウ}ニモ。ヅカスレテ。オハレケリ。其後ハ拜見^シ給コト。ツ子
ノ事ナリケリ

佛教大學所藏

第四段

トコロトコロニ。別時念佛ヲ修シ。不断ノ稱名ツトムルコト。
ミナモト。上人ノ在世ヨリオコレリ。ソノナカニ。上人元久二
年正月一日ヨリ。靈山^{リョウサン}寺ニシテ。三七日ノ別時念佛ヲ
ハシメ給ニ。燈ナクシテ。光明アリ。第五夜ニイタリテ。行道スル
ニ。勢至菩薩オナレク。列ニタチテ。行道^シ給ケリ。法蓮房夢
ノコトクコレヲ拜ス。上人ニコノヨシヲ申ニ。サル事侍ラント者
給。餘人ハサラニ拜セス

第五段

同年四月五日上人月輪殿ニイリ給テ。數尅御法談
アリケリ。退出ノトキ。禪閣^{ゼンカク}庭上ニゾツレオリサセ給テ。上人

ヲ禮拜シ。御ヒタヒヲ。地ニツケテ。ヤ、ヒサシクアリテ。オキサセ
給ヘリ。御涙ニムセヒテ。仰ラシテイハク。上人地ヲハナシテ。虛
空ニ蓮花ヲフミ。ウシロニ頭光現シテ。出給ツルヲハ。ミスヤト。
右京權大夫入道法名戒心中納言阿闍梨蓮房本尋玄蓮房二
人御前ニ候ケル。ミナ見タテミツラサルヨシヲ申。池ノ橋ヲワ
タリ給ケルホトニ。頭光現シケルニヨリテ。カノ橋ヲハ。頭光ノ橋
トソ申ケル。モトヨリ。御歸依フカ、リケルニ。コノ後ハ。イヨイヨ。
佛ノコトクニソ。ゾヤマイ。ダテ、ツラシナル

第六段

アル人不注名字上人ノ念珠ヲ給テ。ヨルヒル。名號ヲトナフ。アル
時。アカラサマニダケクキニ。カケタリケルニ。丁室照曜スル事ア

リケリ。ソノ光ヲタ、シミルコ。上人恩賜ノ念珠ヨリイテタリ。
珠コトニ。歷々タリ。ナラシ晴ノ夜ニ星ヲミルカコトシ。奇異ノ
事ナリトイヘリ

第七段

上人ノ弟子勝法房ハ。繪ヲカク仁ナリケルカ。上人ノ真影
ヲ畫タテマツリテ。其銘ヲ所望シケルニ。上人コレヲ見給テ。
鏡ニ面ヲ左右ノ手ニモテ。水鏡ヲニヘミカシテ。頂ノ前後
ヲ見合ラシ。ダガフトコロニハ。胡粉ヲヌリテ。ナラシツケラシテ。ノ
チコレコソ。似タレトテ。勝法房ニタマハセケリ。銘ノ事ハ返答
ニ。ヲヨハレサリケルヲ。勝法房後日ニ。又參テ申出タリケル。
上人ノ御マヘニ侍ケル紙ニ

我本因地

以念佛心

入無生忍
歸於淨土

十二月十一日 源空

勝法御房

トカキテ授ラレケルハ。是ヲ彼真影ニ押テ。歸敬シケルコトハ。首楞嚴經ノ勢至ノ圓通ノ文ナリ。上人ハ勢至ノ應現タリトイフコト。世舉テコレヲ稱ス。シカルニオホクノ文ノ中ニ。勢至ノ御詞ヲ自贊ニ用ラシ侍ル。コトニ奇特ノ事ナリ。彼真影ヲ拜シタテマツルニ。胡粉ヲ塗テナホサレタル所多シ。コレ末代ノ龜鏡タルニヨリテ。彼自筆ノ本ヲ鴈テ。此繪ニ加置トコロナリ。又或人上人ノ真影ヲ鴈テ其銘ヲ申

寫

ケルニモ。ゴノ文ヲ書テ賜ケリ。彼正本ツタハリテイマニアリトナシ申侍ル。又讚州生福寺ニスミ給シ時ハ。勢至菩薩ノ像ヲ自作シテ。法然本地身大勢至菩薩爲度衆生故顯置此道場等云。置文ニソ載ラシケル。委事ハ彼配所ノ卷ニシルスモノナリ。勢至ノ垂迹タル条。ソノ證據カクノコトシ。尤仰信スルニタレリ

第八段

諸人感夢ノ事オホキナカニ。或人ハ上人蓮花ノナカニシテ念佛ニ給トミルアルトキハ。天童上人ヲ圍繞シテ。管絃遊戲ユルトミル。或ハ又洛中皆鬪諍堅固ナレトモダ。上人ノ住所ハカリ。無爲ナリ。コレスナハ千念佛スルコヘナリトミル。

或ハ嵯峨サカ釋迦トク如來ニツケテノ給ハク。當時法然房トイフ人ノヒラキタル。往生ノ道ミチ千妙ニシテ。オホクノ人ミナソノミチヨリ往生スヘシト。仰ラルトミル。ザレハ上人勸化クワンカノ千都鄙チトビニ往生ヲトクル人オホシ。紫雲ムラサキクモ音樂オンガクコハニモミエ。カシコニモキコユ。夢ユメノツケムナシカラサルコトヲシリヌ。極樂ゴクラクノソミヲカケントモカラ。タレカ上人ノヲシヘヲ。アフカサラン

第九卷

第一段

上人道心ドウシンヲチニ薰クニシ。行業ホカニアラハル。上王公ヨリ。下モ黎元レイゲンニイタルマテ。ソノ德ニ歸セストイフコトナカリキ。後白河法皇河東カチ押小路オシコジノ仙洞センドウニテ。御如法經ヲ修シマシ

一スコトアリキ。上人ヲモテ。御先達タツトセラル。文治四年八月十四日。前方便ヲハシメラル。御經衆ハ法皇妙音院入道相國公師長源空上人ナラヒニ。門弟行賢大德山門ニ良宴リョウエン法印フツイン。行智律師リョウチ。仙雲センウン律師リョウシ。覺兼阿闍梨カクケンアケリ。重圓ジュエン大德トク。園城寺エンジョウジ三道顯僧都ミチノカミ。真賢阿闍梨マケンアケリ。玄修阿闍梨ゲンシュアケリ。圓隆阿闍梨エンリョウアケリ。圓玄阿闍梨エンゲンアケリ等ナリ。去十日日吉ノ社ヤシノヤシノヤシニ。臨幸リンキョウアリシ時。衆徒執當シツタウ澄雲テイウン法印フツインヲモテ。申入ケルハ。東寺ノ僧トウジノソウ今度ノ御經衆ニメシ入ラルヘキヨシゾノキコエアリ。慈覺大師始行ノ法則フツソクナリ。他門ノ僧タカドノソウシカルヘカラス。或ハ上人メシ入ラルヘキヨシ風聞フウブンコシハアナカチニ子コ細コヲ申ヘカラスト云コレニヨリテ。東寺ノ僧ハメサシス。上人ハ勅喚オウケンア

リテ御先達ヲツトメラル。上人ラツ脇次ノ第一タルウヘ先達
タリ。一座タルヘキヨシ。オホセラル。上人クニ辞申サルトイヘトモ。
勅定シキリナルニヨリテ。第一座ニ著ス。正面ノ東西ニ座
ヲシク。東ノ一座上人。西ノ一座ニ法皇。上人ノツキニ入
道相國着シ給。良宴法印以下。官次ニカセテ列座ス。
行基菩薩ハ。世俗ノ法ニヨリテ。婆羅門僧正ノシモニ著シ
給キ。コノ例ニナソラヘハ。良宴法印上座タルヘシトイヘトモ。
別勅ニテ。上人一座ニ著セラル。上人ラフ禮槃ニノホリテ啓
白。其後錫杖ヲ誦シ。懺法ヲハシメタマフ。前方便ノ間ハ。
毎日三時懺法ナリ。同廿日ノ後夜ノ時ヨリ。正懺悔ヲ。
ハシメラル。後夜ノ調聲ハ。上人。晨朝ノ調聲ハ。法皇御ツト

莊

メナリ。堂タウ庄嚴ゴジ義ビヲツクサシ。作法又嚴重ナリ。法皇御靈
夢ノ事ミシテシケリ。子細御願文中納言兼光御草之ニミエタリ

第二段

九月四日御新紙ヲムカヘラル。件ノ新紙ハ觀性法橋
ノ進スルトコロナリ。カノ法橋慈鎮和尚干時法印同宿ノアヒ
タ。御新紙安置ノ所ハ。和尚ノ住房三条白川ナリ。鳥羽
院ノ第七宮覺快親王ノ舊跡ニテソアリケル。良宴法印
以下。十一人ノ經衆ハ。カノ所ヘムカラ。宿老ハノコリトマ
ル儀ニナソラヘテ。法皇上人相國禪門道場ニラケサセ
給フ。新紙ヲ銅ノ筒ニオサメ。御興ニ入タテマツリテ。ムカヘタ
テツル。南ノヒカクレノシタニ。案ツクシタテハ。御興シカキスヘタテ

ツル。良宴法印以下ノ經衆外ニ候シニ。伽陀ヲ誦ス。正
面ノ明障子ヲアケラシテ。法皇伽陀ヲ誦シマシマス。上人
入道相國。オナシク助音申サシ。新紙ヲ道場ニ安置。ノ
チ行道合致アリ。コノ儀ハサタメル法式ニアラス。上人コ
ヲ申ヲコナハレケリ

第三段

同八日。鴈經ノ水ヲムカヘラル。下。鴈ノ僧衆等。横川ニ
ホリテ。慈覺大師ノヲ子ヒ給シ。根本ノ水ヲクミテ。銅ノ瓶
ニイシテ。持參ス。同十一日。御筆立ナリ。慈鎮和尚。觀性
法橋ハ。御經衆ニアラストイヘトモ。モトヨリ。如法經中タル
ニヨリテ。鴈經ノ時參セラル。和尚ハ入道相國ノシモニ著

鴈

レ。觀性法橋ハ。仙雲律師ノシモニ坐ス。上人禮槃ニホリ
テ啓白。下座ノノチ。行道ヲハリテ。伽陀ヲ誦ス。其後十六
人着座シテ。同時ニ筆ヲトリテ。書鴈ヲハレメラル

第四段

同十二日。巳。尅ニ。御書鴈コトラヘシカハ。スナハチ十種供
養ノ儀アリ。伶人ノ上達部。透渡殿ニ著ス。地下ノ樂人
日隠ノ西ノ腋ニ坐シテ。沙陀調ノ調子ヲフス。正面ノ庭
上ニ。赤地ノ錦ノ地鋪ヲヒキテ。ソノ上ニ。机ニ脚ヲタテ、
十種供養ノ具ヲ安ス。天童二人。舞童十六人。東西ヨ
リス、ハミ出テ。供具ヲトリテ。南ノ階下ニ參シテ傳供ス。コノ
アヒタ十天樂ヲ奏ス。御導師澄憲法印ナリ。傳供ノトキ

成衆僧正
面
左右立傳供

ハ制禁カタクシテ。參詣ノ道俗。ヤリ水ノ北ニ。ソマストイヘ
トモ。說法ノ時ハ。勅許アリテ。聽聞ノ繙素群ヲナス。并シテ說
玉ヲハク。貴賤ミナ。涙ヲナカス。說法ノオモムモ。前々ニ超過
セリ。コトニ敬感アルヨシ。權大納言兼雅卿ヲモテ。仰下サ
ル。導師下座ノ時。千秋樂ヲ奏ス。入道相國。唱哥カ中ノ
御門大納言宗家卿助音。凡今日ノ儀式。萬代ノ義
談ナル。六十ノ御賀ヲ。コナハス。自然ニコノ事ニアル。カノ
ヨシ。時ノ人申アヘリ

第五段

同十三日御經奉納ノタメニ。首楞嚴院ニ臨幸アリ。長
吏圓良法印ノ沙汰トシテ。水飲ニ御所ヲマウケ。供御ナ

樂人法男
房山御
候

簀

ラヒニ。御行水ヲ用意ス。法皇鳥居ノ岡ヨリ。御步行。ッ
四季講堂ニ入御ゾノ。千。如法堂ノ中門ノ外ニ。天童以
下供具ヲサハケテ。左右ニタツ樂ヲ奏ス。中門ノヲ千ヨリ。
御淨履ヲタテミツリテ。如法堂ニ入御。中門ヨリ。御堂ニ
イタルマテ。庭道ヲシク。西ノ戸ヨリ。御經ヲ入タテ。ツリテ。正
面ノ南ノ庇ニ安ス。御經衆南ノ簀子ニ候ス。行智律師
御經ヲトリ出タテ。ツル。法皇ヲケトラセ。オハシマシテ。長吏
圓良法印ニ。ヲタシタマハス。コノアヒタ伽陀ヲ誦ス。御導師
圓能法印ナリ。千時法橋說法ノ。千。中門ノホカニシテ。御布
施ヲタマフ。次二十天樂ヲ奏ス。サテ法界房ニ渡御ノ。千。
宗明樂ヲ奏シ。伽陀ヲ誦ス。導師又圓能法印ナリ。啓白

下座ノ後。中堂ニ臨幸アリ

第六段

中堂ヨリ還御。食堂ニシテ。御裝束ヲアラタメラル。ゴノアヒ
タ。衆徒庭上ニ群參シテ。延年種々ノ藝ヲホトコス。奉行
人定長卿ヲモテ。御願無爲ノ条。ヒトヘニコシ衆徒祈念
ノイタストコロナリ。獻感ハナハタシキヨシ。澄雲法印ニ。オホセ
クササル。澄雲庭ニオリテ。勅定ノオモムキヲ。衆徒ニオホス。
ソノチ。ユフヘニヲヨヒケシハ。スナハク還御アリ。辰尅ニ押小路
殿ニ著御。本道場ニシテ。懺法ヲ、コナハル。コレヲ歡喜懺
法ト号ス。抑慈覺大師ノ門徒。餘流山門園城ノ碩德
高僧。ソノ數オホカル中ニ。隱遁ノ上人ヲメシタシテ。御先

達トセラシケルコト。シカシナカラ。佛德ノイタリ。御歸依ノア
ーリナリ

第十卷

第一段

高倉院御在位ノトキ。兼安五年ノ春。勅請アリシカハ。主
上ニ。一乘圓戒ヲサツケタマツラル。卿相頂戴シ。宮人警
首ス。清和御門貞觀年中ニ。慈覺大師ヲ。紫震ニ請シタ
テマツラル。天皇々后トモニ。圓戒ヲウケマシメシキ。上人カノ
九代ノ嫡嗣トシテ。法流タハ一器ニツタハリキ。ハルカニ。イニ
シヘノアトヲ。オコレタマヒマルコ。イミシク侍シ

第二段

後白河法皇勅請アリケレハ。上人法住寺ノ御所ニ參レ
タニヒテ。一乘圓戒ヲサツケ申サレケル。山門園城ノ碩德ヲ
メサシテ。番々往生要集ヲ講シ。ヲノヲノ所存ノ義ヲヘサセ
ラシケルニ。上人オホセニシタカヒテ。披講シ給ケルニ。往生極
樂ノ教行ハ。濁世末代ノ目足ナリ。道俗貴賤タレカ歸セサ
ランモノト。ヨミアケ給ヨリ。パシメテ。キコシメサル、ヤウニ。御キモ
ニソミテ。タウトク。御感涙ハナハタシカリケリ。御信仰ノアマリ。
右京權大夫隆信朝臣ニ。オホセテ。上人ノ真影ヲ圖シテ。
蓮花玉院ノ寶藏ニ。オサヒメラル。先代ニモゾノ例メシナル事
トッ。申アヘリケル

第三段

後白河ノ法皇ヒトヘニ。上人ノ勸化ニ。歸シミレシ。御信
仰他ニコトナリシカハ。百萬遍ノ御苦行。二百餘箇度ニテ。
功ヲツミ。比類ナキ御事ニテソ。マシメケル。建久三年正月
五日ヨリ。御惱アリケルニ。日ニシタカヒテ。ヲモラセ。オハシマシ
ケレハ。御善知識ニ。參セラルヘキヨシ。仰下サル、ニヨリテ。二
月廿六日ニ。上人參シタマヒテ。御戒ヲ校タテマツラシ御
往生ノ儀式ヲサタメ申サル。念佛往生ノ道ハ。日コロキコ
シメシヲカレケルウヘ。カサ子テ申入ラル、ム子、ンゴロナリシ
カハイヨイヨ御信心フカクレテ。御念佛ヲコタラセタマハス。御
臨終千カツカセ給ケレハ。同三月十二日戊尅ニ御佛ヲ
渡シタテマツラシ。十三日寅尅御臨終正念ニシテ。稱名

相續シ。御端坐子フルカコトクシテ。往生ノ素懷ヲトケサセ給キ。御年六十六ナリ。誠ニ御宿縁ノイタリ。アハレニソ。オホヘ侍

第四段

法皇崩御ノ後。カノ御菩提ノ御タメニ。建久三年秋ノコロ。大和前司親盛入道見佛入坂ノ引導寺ニシテ。心阿彌陀佛調聲シ。住蓮安樂見佛等ノタクヒ。助音シテ。六時禮讚ヲ修シ。七日念佛ス。結願ノ時。種々ノ捧物ヲトリイテケルヲ。上人不受ノ氣オハシメシテ。念佛ハミツカラメタメノツトメナリ。法皇ノ御菩提ニ。廻向シタテマツルトモ。布施以外ノ事ナリ。ユメユマルヘカラストソイマシメ給ケルコ

レ六時禮讚苦行ノハシメナリ

第五段

後白河ノ法皇ノ十三年ノ御遠忌ニアタリテ。土御門院元久元年三月ニ。御佛事ヲ修セラレケルニ。上人蓮華王院ニシテ。浄土ノ三部經ヲ書寫セラシ。能聲ヲエラヒテ。六時禮讚ヲ勤行シテ。子ニコロニ。御菩提ヲメ。訪申サレケル。又大和入道見佛モ。オナレク。法皇ノ御菩提ヲイノリ申サンタメニ。イツレノ行法ヲカ。修スヘキト。思惟スルニ。法皇見佛カ夢ニ。我菩提ヲハ。如法ニ訪ヘキヨシラ。示サレケリ。則見佛此由ヲ。上人ニ申ケシハ。上人浄土ノ三部經ヲ如法ニ書寫スヘキ次第。法華ノ如法經ニテソラヘテ。法則ヲ

出サレ。所謂カノ記ニ云

淨土三部經如法經次第

一御新紙事。紙ソヲ殖テ。千日はヲコナヘ。其間ハ念佛禮讚ヲ用ヘシ。若カクノコトクヲコナヘル。新紙ナクハ市ノ新紙ヲ用ヘシ。

一堂莊嚴事。如常

一前方便七箇日事。沐浴潔齊。淨衣等常ノコトシ。但絹綿ノ類ハ。用否人ノ意ニアルヘシ。

一入道場次第。門前ノ灑水并ニ香呂花。莚香爲等常ノコトシ。次ニ諸衆寶座ノ前ニ列立シテ。惣禮ノ伽陀ヲ誦スヘシ。

籬

シ其詞ニ云

歸命本師釋迦佛 十方世界諸如來
願受施主衆生請 不捨慈悲入道場

南無十方三世一切諸佛哀愍納受入此道場

本國彌陀諸聖衆 平等俱來坐道場
道場聖衆實難逢 衆等頂礼彌陀會

南無極樂世界諸尊聖衆慈悲護念證明功德
次彌陀ヲ讚嘆シタテシルヘシ

弘誓多門四十八 偏標念佛最爲親

人能念佛々還念 專心想佛々知人

南無極樂化主彌陀如來命終決定往生極樂

次ニ經ヲ讚嘆スヘシ

念々思聞淨土教 文々句々誓當勤

憶想長時浪波苦 專心聽法入真門

南無淨土三部甚深妙典命終決定往生極樂

次ニ禮讚日没ノ時ヨリ。是ヲ始ヘシ。諸衆着座。導師登

禮盤禮讚ノ後。高聲念佛三百反。但時ノ早晩ニヨルヘ

シ。禮讚ノ時尅ハ。日没申時初夜戌時半夜子時後夜

寅時辰時晨朝辰時日中午時ナルヘシ。次ニ佛經ヲ讚歎ス

ヘシ。伽陀其詞先ノコトシ。但開白ノ時ハ。念佛以後ノ讚

嘆ヲ略スヘシ。又開白以後ハ。惣禮ノ伽陀ヲ略スヘシ。次

ニ例時ノ作法常ノコトシ。但日没一時ヲ用ヘシ。次ニ讀

經ハ雙卷經サツシ九ヘシ。轉讀ノ多少。時ノ早晩ニ隨シタカヘシ。次出堂

後々ノ時コレニナソラヘテ知ヘシ。前方便七箇日ノ

間。日別カクノコトクナルヘシ

一寫經七箇日。事沐浴モク索齋ソク入道場禮讚念佛讀經

等ノ次第。前方便ノコトシ。一事モ違スヘカラス。筆立ノ

次第。初日晨朝ノ禮讚以後。啓白キハクアルヘシ。其器量ヲ

選セラフヘシ。分經并ニ墨筆等以下ノ諸事常ノコトシ。日別

ノ書寫禮讚以後多少。時ニヨルヘシ。但七箇日ノ間ニ

其功ハ終ヘキナリ。日別解説日中ノ禮讚以後ナルヘ

シ。日々ノ次第。是ニナソラヘテ知ヘシ。七箇日間ノ儀式

カクノコトシ

善根

次ニ奉納ノ次第常ノコトシ。佛經讚嘆先ノコトシ。但
讚嘆ノ多少時宜ニヨルヘシ奉納路次ノ間モ合致常
ノコトシ
上人トキ記トキ録トキノ法則トキカクノコトシ。追福トキノタメニコレヲノ菩
提ヲ修スル事コトキヨルハシメシトナシ。申ツタヘ侍ル
サシハ。其後三部經ヲ如法ニ書寫スル事。世ニオホクキ
コエ侍リ

第六段

後鳥羽院トキ度々勅請アリテ。圓戒ヲ御傳受。上西門
院トキ修明門院トキオナシク。御受戒アリキカハリレカハ。三公
公トキ卿トキカウベヲカタフケ。一朝アフキテ。傳戒ノ師トセスト

イフ事ナカリキ

傳繪詞卷二終

